

# 第1回 菊川市子ども・わかもの参画協議会

日時：6月15日（木）18:00～19:30

場所：プラザきくる3階301会議室

参加委員：15名（望月基希、小杉晋也、菅野真紀、勝又健介、山下千鶴、財津由記、磯崎心叶、成島千尋、カトウズプール紗奈、戸塚俊作、平野丈、増田晴夏、服部晃範、松下麻衣子、石川公朗、岡田祐三）

事務局：菊川市市民協働センター（笠原活世、鈴木貫司）

アドバイザー：NPO法人わかものまぢ 土肥潤也

1. 協議会趣旨の説明、若者意識調査の実施について
2. 菊川の現在の若者の参画の現状について
3. 協議会委員の自己紹介
4. 話題提供：子ども家庭庁発足に伴う子ども・若者の意見反映について
5. 閉会挨拶

## 3. 参加者自己紹介

### 笠原活世（菊川市市民協働センター）

菊川市市民協働センターの笠原活世です。高校生や大学生が参加することは滅多にないため、とてもワクワクしています。皆さんと一緒に子ども・わかもの参画宣言を作り上げたいという気持ちで一杯です。ただ、私たちだけではなく、みんなで作り上げれば大丈夫だと思っています。若者と関わることで、私の明るい未来が広がっていると感じています。数年前に変えた協働センターのキャッチフレーズは「未来につながる未来広がる協働センター」です。高校生との交流を通じて感じたこと、もっと明るい未来を開いていきたいという気持ちです。よろしくお願いいたします。

### 岡田祐三（地域支援課）

私は市民協働センターで地域支援の業務を担当しています。協議会に期待することとして、市役所の業務においても当事者の言葉を十分に反映させることが重要だと感じています。若者の皆さんに関しても、他の分野でも同様のことが言えます。現在、若者の皆さんの考えや形を正確に把握できているかはまだ十分ではないかもしれません。そうした課題を踏まえ、今回の協議会で皆さんに集まっていたことは非常に意義深いと思っています。また、若者の視点を大切に考えたいと思っています。市役所の業務を進めている中で、私は担当者として活動しています。しかし、市役所内には役割分担や縦割りの組織が存在しており、それぞれが異なる業務を担当しています。新たな動きに関しては、どのような役割分担が必要なかを早急に決める必要があると考えています。以上です。よろしくお願いいたします。

### 石川 公朗（企画政策課）

こんばんは、市役所の企画政策課の石川と申します。よろしくお願いいたします。今の思っていることとし

ては、自分の役割として、企画政策課の中で何ができるか考えています。なぜ、呼ばれているかという、小笠高校と常葉菊川高校との包括連携協定が結ばれましたが、その主担当課であることが1つです。

今、高校生がこれだけ来ているのに驚いています。協議会に期待していることとしては、高校生、大学生が参加することで、友達や後輩など、多くの人たちがどのような取り組みをしているかに興味を持ってもらえることを期待しています。来ている子ども若者代表には、広めてもらいたいと思っています。若者に対して、感じていることとして、人口減少が大きな課題であることに取り組んでいます。切り口はいろいろあって、健康寿命を延ばし、子どもが少しでも生まれるような取り組みを行っています。個人的な意見ですが、重要だと思っているのは、若い子たちが一時的に離れることもあるかもしれませんが、最終的には彼らが「菊川に住みたい」と言って戻ってきてくれるような環境を作りたいと思っています。活動を通じて、こども、若者たちが活気のあるまち、戻ってきたいと思えるようなまちを作りたいと考えています。ありがとうございます。

### **松下 麻衣子** こども未来部連携調整室

私は子ども未来部連携調整を担当している松下です。普段は子ども未来部と子育て応援課の2つの組織に所属しています。子ども未来部では幼稚園や保育園、放課後児童クラブ、児童手当の給付などを担当しています。小学校との今日は第一回の会議ということで、新たな始まりに少し不安を感じています。協議会に参加することで、普段接点のない関係者と共通のテーマに基づいて話し合うことができると期待しています。私は子どもたちと関わっている中で思っていることは、まちづくりに関心のある人が多いことに驚きを感じています。自分が若者だった頃は、自身のことに一生懸命でまちづくりについてはあまり考えたことがありませんでした。小さな収穫祭やみんなのアソビバにも足を運んだことがありますが、まちづくりのことも自分ごとに捉えられていることへの驚きと、未来は明るいと感じています。ありがとうございました。

### **服部 晃範** 学校教育課

学校教育課の学校政策係の服部です。よろしくお願ひします。現在の気持ちは、少し心配しています。まちづくりにおいて、若者や若い人たちの意見を取り入れる方法について考えています。通常の選挙などでは、若い人の意見がなかなか反映されないと感じます。で、実際のまちづくりに若い人たちの意見や考えを反映させるような活動やシステムを作ることが重要だと思います。私自身は指導主事として、2年前まで学校の教師として働いていました。子どもたちに菊川の魅力を紹介しようという授業をしましたが、うまくいかないこともあります。住んでいるからこそ魅力に気付いていない、その子たちがそれに気づけるような活動を増やしていきたいと思っています。昨年度、小中一貫の教育に関連する会議で大学生と話す機会がありました。市のことを良くしてたいと思っている若い人たちも思い、そうした人たちの増やしていくこと、想いを拾っていくのが重要だと思います。

### **増田 晴夏** 静岡県立小笠高等学校

小笠高校の増田はるかです。

今の気持ちは、このような協議会に参加したことがないため、非常に緊張しています。

協議会に期待することは、自分自身が改めて菊川市に向き合って、もっと菊川市のことが好きになれた

らと思っています。また、私自身も小さな収穫祭やボランティア活動に参加した経験があり、地域との関わりを感じています。しかし、さらに多方面に関わっていき、子ども自身もより主体的に関われるような活動を増やしていきたいと思っています。よろしくお願いします。

**平野 丈** 静岡県立小笠高等学校 こんばんは。静岡県立小笠高等学校の平野丈と申します。現在の気持ちは、このような重要な役割を果たすことはなかなかないので、少し緊張しています。菊川市がよいまちになるように、頑張っていきたいと思っています。若者として感じていることは、私自身、生活する中で不便な面も感じる場合があります。参加する上でそうした問題を解決していきたいと思っています。協議会に期待することは、より良い菊川になるように、こどもも大人も同等の立場で話し合える環境を実現することです。どうぞよろしくお願いします。

**戸塚 俊作** 静岡県立掛川西高等学校 この協議会に参加したきっかけは、昨年まちづくりスクールに参加した経験があり、その後も子どもの教育の場、(夏休みのこどもの宿題会)に関わる活動を継続しているためです。現在の気持ちはとてもワクワクしており、協議会の中で様々な意見を聞けることに期待しています。自治体や大学生など、異なる立場の人々からの多角的な視点を期待しています。子どもや若者の立場としては、子育て支援や教育に関する支援が本気で行われているのかという疑問や懸念も抱えています。その面で意見を聞いたり、自分たちからも発信しながら、良い政策を考えていきたいと思っています。よろしくお願いします。

**カトウズプール 紗奈** 常葉大学附属菊川高等学校

こんばんは。常葉大学附属菊川高等学校 です。今、私は緊張していますが、このような活動に初めて参加するので、挑戦の第一歩としてワクワクしています。私は大人との関わりが少ないため、意見交換をたくさんしたいと思っています。他の人の考えを知り、自分たちとの違いをより良いものにしていきたいと思っています。実際に協議会に参加して、若者や子どもの意見を反映させ、菊川をより良いまちにするための取り組みをしたいと思っています。よろしくお願いします。

**成島 千尋** 常葉大学附属菊川高等学校 こんばんは。常葉大学附属菊川高等学校の成島千尋です。現在の気持ちは、参加することが初めてなので、少し緊張しています。菊川市で子どもが意見を発する場が多いと感じていて、それを見て、自分も関わりたいと感じました。私自身、大人の方々との交流や話し合いの機会が少なかったため、多くの意見を聞きながら自分自身も考えることが大切だと思っています。大人が用意した場に子どもたちが参加して、発表するということが多かった感じていて、子どもたちが主体となって意見を発信し、こども自ら行動していく状況に興味があります。そうした積極的な姿勢を持ちながら、取り組んでいきたいと思っています。

**磯崎 心叶** 静岡県立大学

こんばんは。静岡県立大学の磯崎心叶と申します。現在の気持ちは、少し緊張していますが、こうして

様々な方と話をすることができて、多様な考えや意見に触れることができるので、とても楽しみにしています。協議会に期待していることは、意見を取り入れながら進めることです。また、いろんなぎっかけを通じてまちづくりに興味を持っている友人たちとも話をする機会がありますが、なかなか踏み出せない状況もあります。若者がまちづくりに参加することができる環境や受け入れられる場が増えているということはとても大切で、若者がまちづくりができるオープンに開示して、若者がまちづくりに参加できるようなまちになっていくといいなと思っています。よろしくお願いします。

### 財津 由記（中高生保護者）

こんばんは、中高生の保護者での財津由記です。よろしくお願いします。現在の気持ちは、私自身が菊川市で生まれ、育ちました。私の子どもたちは大学一年生の男子、中学三年生の男子、小学校六年生の女子という年齢です。子育てを経験してきた世代として、何かお手伝いできれば良いなと思っています。協議会においては、わかものまちなミット in 菊川をより広く周知し、関係人口が増えたらと思っています。思いとしては、何かやってみたいというのは高校生だけでなく、様々な年齢の大人の人でも応援したいという想いは常にあるので、その手伝いができたらと思っています。どうぞよろしくお願いします。

### 山下 千鶴（小笠児童館）

小笠児童館の山下と申します。よろしくお願いいたします。現在の気持ちとして、若い人たちの真剣さに感動しました。さまざまな意見を聞いたり、自分の意見を聞いてもらったりすることでワクワクしています。ここに呼んでいただいて嬉しいです。ありがとうございます。この協議会についてですね。まだ若干小笠の空気から抜け出せていない感じがします。でもそんなことを言っている場合にはありません。菊川に来て、30年、小笠に来て9年目になります。合併後の小笠と菊川を比較してしまい、なかなかこちらの風がっていない、受け入れられないのかなと思います。この機会に市全体で若者の力を浸透していただき、どこにでも、若者や子どもたちの声が届けばいいなと思います。現在の職場でゼロから18歳までの子供たちが遊びに来る環境を作っていますが、皆さんが自分の声を発することなく流されてしまうのが悲しいです。ただ、私自身も小さい頃は内向的で引っ込み思案でしたが、大人になるにつれて声を出せるようになり、こうして皆さんの前で発言できるようになったことを思い出しました。成長していく姿を期待していますので、今でない言葉かもしれませんが、皆さんの声を大きくしていただくと嬉しいです。私自身、皆さんと一緒に若い人たちが引っ張り、縁の下の力持ちとして、頑張らせていただきますので、よろしくお願いいたします。ありがとうございます。

### 勝又 健介（わくわく学習会）

勝俣健介と申します。わくわく学習会の代表を務めています。学習会は生活が困窮していたり、不登校や登校渋り、別室登校、そしてLGBTQなどの理由を持つ子供たちの学習支援や居場所づくりを行っています。現在の気持ちは期待と不安が入り混じっているところです。協議会に対して二つの要望があります。一つは、宣言だけで終わらず、宣言を具体的な行動に繋げてほしいということです。もう一つは、「若者」という言葉がまちづくりや政治の前につかない時代になってほしいということです。若者が

普通に参加し、まちづくりや政治に関わっている状態を期待しています。子どもたちが関わりの中で、私が思っていることは、先ほど言ったように、さまざまな理由で困難な状況にある子どもたちと頻繁に接している中で、その子供たちやその家族と一緒にいたいという思いが一番強いです。現在、菊川市では222人の児童生徒が「準要保護」とされており、生活保護の基準には達していないものの、その基準の1.5倍未満の収入で生活しています。対象となる子供たちが昨年5月時点で222人になります。また、小学生や中学生で不登校や別室登校をしている生徒も昨年末時点で134人います。この数字を見ると、やはりそうした子どもたちの近くで活動し、彼らと一緒にまちづくりに参画できるような土台を作っていきたいと思っています。

### 菅野 真紀（虹の架け橋菊川・小笠教室）

皆さん、こんばんは。私は菅野まきと申します。今回は菊川から参りました小笠地区の方です。今の私の気持ちは非常にドキドキしています。そのドキドキには二つの要素があります。

まず一つ目は、このような公の場で皆さんがしっかりと意見を述べている姿を見て、とても緊張しています。皆さんの意見に対してしっかりと応えることが求められる場であるため、緊張しています。そしてもう一つは、今後の活動についてのドキドキです。私は菊川がどのように発展していくのか、未来の活動について考えるとワクワクと不安が入り混じった気持ちになります。私は協議会に対して、多くの子どもたちが自分のまちを愛し、菊川が好きだと感じることを期待しています。私自身の子供や、子どもたちの友人たちからも「どうせ菊川だから」という言葉を聞くことができました。そうした思いを変えるために、菊川から素敵なメッセージを発信していきたいと思っています。しかしながら、皆さんの若い方々からしっかりとした意見を聞くことで、勇気をもらいました。若者の意見はとても素晴らしいと感じました。また、子どもや若者と関わる中で、私は「つながる菊 Café プロジェクト」という居場所づくりの活動も行っています。どんな子どもや大人でも居場所が必要だと思っています。菊川が皆がホッとできる居場所になることを願っています。この居場所づくりが進展して、誰もが安心して意見を言える街になっていたら素晴らしいと思っています。皆さんどうぞよろしくお願いします。

### 小杉 晋也（常葉大学附属菊川中高等学校）

常葉菊川高校の小杉です。よろしく申し上げます。今日こちらに来る前は最初、難しそうだなとか、できるかなと考えていました。しかし、皆さんは素晴らしい意見をしっかりと述べたりしていて、その姿勢に感銘を受けました。自分もしっかり頑張って勉強していこうという気持ちが変わりました。実際に生徒と関わっていると、私は高齢なので、子どもたちが持っているエネルギーを感じます。しかし、大人の都合でそのエネルギーを潰してしまっていると自分自身も自戒を込めて思っています。今回は、子供たちのエネルギーを活かし、大人たちの常識で潰さないようにしたいと思っています。また、生徒たちと関わっていると、大人たちが知らないことがたくさんあり、それを教えてもらうこともあります。面白いなと思ったり、そんなことを知っているのかと驚いたりすることもあります。そうした経験をどんどん伝えてもらえたらいいなと思っています。以上です。よろしくお願ひいたします。

### 望月 基希（静岡県立小笠高等学校）

こんばんは、小笠高校の望月基樹です。よろしくお願ひいたします。現在の気持ちはワクワク感でいっば

いです。協議会に期待することですが、今回はさまざまな立場や世代の人々が集まっています。それぞれの方々には長所や持ち味があると思いますので、この協議会で参加者の持ち味が十分に引き出されることを願っています。また、子どもや若者に関わる中で私が思っていることは、学校においては常に新たな視点を知ることができると思います。まちづくりの視点で考えると、私は高校生の時からその関心がありました。当時はバブル期であり、まちづくりにおいてはハード面が重視されていましたが、現在はコミュニティづくりが重要視されています。ハード面の中で質の向上や人との関わりが必要だと思っています。高校生の新たな視点が新たなコミュニティづくりに生かされることを期待しています。皆さん、ありがとうございます。